



TITLE:

邦文天文書總覽(二)

AUTHOR(S):

古川, 龍城

---

CITATION:

古川, 龍城. 邦文天文書總覽(二). 天界 1920, 1(2): 26-28

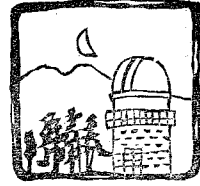
ISSUE DATE:

1920-11-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159526>

RIGHT:



## 邦文天文書總覽(二)

古川 龍城

次は曆に就いての本を紹介しよう。

(二二)柳 清子	曆日諺解	二五	須原屋
(二三)曆日研究會	曆の語	四〇	人文社
(二四)東 宗平	曆	五〇	裳華房
(二五)田丸卓郎	永世曆	六〇	丸善
(二六)中倉祇氏	略本曆	五〇〇	乙卯出版部
(二七)一戸直藏	曆の語	一二〇	大鑑閣
(二八)小澤啓太郎	曆講話	一二〇	辰文館

右に書いた中絶版で無いのは(二七)と(二八)とだけである。(二二)と(二三)(二五)は未だ見ない。

(二四)は通俗に解説し干支とか五行とか迷信に關する事項まで委しく説明し、(二六)は龐大な本で主として神社の由來とか祭禮などに力を入れて説き神官用の書と思ふ。(二七)は附録の陰陽曆對照表が頗る便利な物で、(二八)は色々な挿圖があり中々氣の利いた書き振りを示して居る。次に星圖の類では

(二九)日本天文學會 早座 早見 一二〇 三省堂  
(三〇)同 新撰恒星圖(折本) 一〇〇 同

(三一)同 恒星解説 三〇 同  
(三二)小倉伸吉 星の圖 六〇 大鑑閣

今まで星圖は此の三種類(三一は解説した物で圖では無い)に止まり(二九)は一枚の表で任意の時刻に天空に如何なる星座が見えるかを直ぐ知るを得て甚だ便利な物である。併し星の名稱は一々記入してない。其れは(三〇)に依つて知らねばならぬ。此の圖は一枚刷で五等星迄と有名な星雲星團等をも洩らさず、甚だ整つた物で折本の外、軸製にもなつて居たが惜しい哉絶版らしい。(三二)は小倉氏の編した前圖の解説で、變光星、星團、星雲、重星の表など甚だ便利であるが、矢張り絶版となつた。(三三)は今では本邦唯一の星圖で四等星迄を記し甚だ簡便な菊版型の小冊子である。此れ以外本邦出版の星圖の無いのは不便である。次は雜誌を集めた。

(三三) 探險世界 世界 二二 成功雜誌社  
(三四) 少年星の秘密號 三〇 時事新報社  
(三五) 少年星の世界 一〇 不明  
(三六) 天文月報一部 二〇 日本天文學會  
(三七) 天文月報一部 二〇 天文同好會

此の中で(三三)は月に關する小説、文學等の記事

を集めた物で中々面白い。(三四)は巻頭に少し星の事を書いた物で、(三五)は知らない。以上三部は絶版で、(三六)は明治四十一年に初めて呱呱の聲を舉げた物で理學の各科で其れまで各専門の雜誌の無い物は一つも無く獨り天文のみ何等専門雜誌の無かつた事は天文學者の等しく遺憾として居た處で、斯の雜誌の發刊は學者多年の渴望を満たした物である。

併しながら他の化學雜誌とか、動物學雜誌とかは一般人の購讀などは顧慮せず専ら、學者の需要を充たす事を趣旨として居るが、此の雜誌は通俗向きと云ふ事を念頭に置くのは未だ程度の低い憾みはあるが、併し純粹に學者向きとしたら未だ本邦の如き斯學の普及しない所では購讀者が百人にも満たないから、實は止むを得ず素人をも眼中に置いたので、此の點は諒すべきである。扱て吾々の(三七)の天界は吾が會の發表機關で其の趣意とする所は別に掲載した通りで此處には省く。次には宇宙開闢論に關する書を集めた。

(三八)一戸直藏	宇宙開闢論史	一八〇	大倉書店
(三九)同	宇宙發展論	一八〇	同
(四〇)同	最近の宇宙觀	四七〇	大燈閣

(四一)蘆野敬三郎 宇宙の進化 二八〇 博文館  
(四二)新城新藏 宇宙進化論 二七〇 丸善

右に掲げた中(三八)から(四〇)迄は Arhenius の

原著で(三八)は古代人の宇宙觀や創造說話や、又近世の進歩した天地開闢論やらを歴史的に記載し、(三九)は前書の姉妹書で地球の構造に筆を起し太陽、星雲等に及ぼし、結局二天體の衝突から星雲が出来、其れが冷却收縮して恒星となるとの論で、又地上の生命の起源を他天體から飛來した胞子に歸して居る。(四〇)は銀河やら天體の大氣、惑星などを論じ、素人にも十分興味を起させる書き振りで、(四二)は宇宙の構造、天體の運動、宇宙の進化に就き新城博士獨特の創意を以つて一貫し、宇宙は漸進的に進化してアレニウスの循環説とは見解を異にして居られる。(四一)は蘆野理學士が大體 Hale の原書に依り太陽系、恒星界、新舊の天文學、宇宙開闢論に就き精細に筆を運び、大體アレニウス流の見解である。是等は皆に天文學者のみならず哲學者、宗教家なども一讀すれば大に得る所があるであらう。けれども次の様な一般天文學を讀んで居ないと一寸了解に苦しみ憂ひが無いでも無からう。

(四三)須藤傳次郎 星 學 一〇〇 博文館  
 (四四)一戸直藏 高等天文學 一〇〇 同  
 (四五)同 通俗天文學上 三五〇 大鐙閣  
 (四六)同 講義天文學下 三五〇 同  
 (四七)同 宇宙研究星天文學 一二〇 裳華房  
 (四七)木村一步 洛氏天文學下 不明 不明  
 苟も天文學を系統的に研究しようと思へば(四三)は是非精讀する必要がある、一寸古いのは我慢して殊に第一編緒論は他の専ら通俗平易を旨とする本には詳説して無い座標、器械、惑星の運動、距離質量の測法、種々の誤差など極めて要領よく書いてある。第二編は太陽系、第三編は恒星界に就いての記述である。書き振りは一向趣味は無いが眞の意味の天文學を知らうとする人には絶好の入門書である。  
 (四四)は諸種の誤差、天體の運動、引力、經緯度及び時の測定法等を詳記し、高等數學を用ひ稍程度の高い本である。(四五)は上巻に於いては(四三)に似て、一層詳しく新らしく緒論と太陽系とを收め、下巻は最近の出版で恒星界に就いて詳述してある。此の書上下二巻を精讀すれば一廉の素人天文學者となる事が出來よう。(四六)は Newcomb の名著の翻譯で初めに恒星の通論及び各論を排列し、卷末には宇

宙の組織とか發展とかの問題に論及してある。幾度讀んでも津々たる趣味の盡きるのを知らない。(四七)は Lockyer の翻譯で明治の初年の出版である。以上の中で(四五)を除き他は惜しい哉皆絶版となつた。終りに小説を二種掲げる。

(四八)黒岩涙香 暗黒星 不明 不明  
 (四九)橋本 弘 初めて月世界へ 行ける人 五五 明進社

此の中で前書は早や絶版、ニューカムの原著で、暗黒星が太陽系内へ突進して來て、地球上の人々が大危害を被り、後書は或る發明家が月世界へ飛んで行つたら、其處には奇體な人類(?)が居て抵抗する有様を書いたもので雙方とも中々面白い。是れで明治大正の代に出版された邦文天文圖書は殆んど盡した積りである。若し讀者の中で此れ等以外の物を御承知ならば是非御一報を煩はし度いと思ふ。(終り)

附記 若し會員諸氏の中で次の書を御持ちになつて居て御不用ならば相當の代價で譲つて下さるか、又新刊書と交換して下さる事を切望します。

文部省天文學。同時學及時刻學。民友社天文の話。木村一步洛氏天文學。横山又次郎地球と彗星の衝突。高野弦月ハーレー大彗星の話。少女星の世界。曆術研究會曆の話。柳清子曆日諺解。田丸卓郎永世曆。黒岩涙香暗黒星。